

令和6年度「FUKUI TAIKEN MARCHE in ハピテラス」事業報告書

令和6年7月6日(土) 10:00~15:00

I 事業概要

「FUKUI TAIKEN MARCHE」では、子どもの健やかな成長に自然、芸術、生活、交流などの様々な体験がいかに大切かを広く家庭や社会に伝え、社会全体で多様な体験の場と機会を提供し、体験活動を推進する気運を高める機会として開催した。また、福井県内各地域における多種多様な業種の方々からも当趣旨にご賛同いただき、福井県「体験の風をおこそう」実行委員会構成団体をはじめ、出展していただく団体と協働して、本事業を企画運営することで、団体間の連携を強化し、「体験の風をおこそう」運動推進事業の推進、広報活動の強化を図ることができた。

令和3年度、令和4年度では「FUKUI Kids EXPO」という事業名で開催しており、コンセプト等をブラッシュアップし今回で3回目の実施となった。

◆ 開催場所

福井市にぎわい交流施設 ハピテラス(福井県福井市中央1丁目2-1)

◆ 連携機関(出展団体ならびに体験内容)

出展団体(実行委員会所属団体)	体験内容
国立若狭湾青少年自然の家	事務局、総合案内所(受付・ノベルティ配布等)
福井県キャンプ協会	薪割り体験・火おこし体験・たき火体験
一般社団法人 Switch Switch	木の実の油を使った木エクラフト体験
特定非営利活動法人エコプランふくい	まつぼっくりでけん玉づくり、うちエコ診断
合同会社ノーム自然環境教育事務所	自然物を使った虫ムシ君づくり
福井県立の青少年教育施設 ・あわら青年の家 ・奥越高原青少年自然の家 ・越前青年の家 ・三方青年の家	ボランティアと様々なボードゲーム体験
出展団体(協力団体)	体験内容
福井市少年自然の家	木エペンダント・シュリンクキーホルダー
仁愛大学子ども教育学科	コロコロ工作体験
福井大学生サークル「Palette」	ごみ分別チャレンジゲーム
株式会社ネクアス	卵の殻からできた環境にやさしいフィルムプランターづくり
株式会社 UACJ	アルミニウムでできたオリジナルカップづくり
くにみクラゲ公民館	小さな生き物探し(ちりめんじゃこの小さな生き物)
水口木材株式会社	福井県産スギを使ったクラフト体験
ボーイスカウト福井連盟	牛乳パックを使ったホイッスル作り
ガールスカウト福井県連盟	SDGs風鈴作り
福井県里山里海湖研究所	自然物を使ったクラフト体験
国立乗鞍青少年交流の家	牛乳パック防災クラフト

国立立山青少年自然の家	桐の廃材でつくる桐きりストラップ 間伐材でつくるウエルカムボード
国立中央青少年交流の家	丸木のマグネット
特別協賛	体験内容
コールマン	デイキャンプ体験

II 当日運営について

当日は、悪天候の予報で、開催中に会場地域では大雨警報が発令されるほど局地的な大雨に見舞われた。しかしながら、屋根がある会場だったため、イベントブースへの影響はほとんどみられなかった。むしろ、雨のおかげで気温はそれほど上がらず、熱中症の心配も和らいだ。駅前の会場だったこともあり、雨宿りに来場する家族や通りすがりに寄られる方も多くいた。

◆ 来場者情報

来場者数: 家族等179組 555名 (内訳: 大人 341名、子ども: 214名)

今回、事業会場として福井駅前のハピテラスを選んだ理由は、①天候に左右されない会場が良いということ②福井県内で人が多く集まる会場が良いということ、である。①については、ハピテラスは屋根があり、半屋内という場所である程度の雨風はしのぐことができた。また、②については、令和6年3月に北陸新幹線が延伸することで、県内外から多くの訪問者が来て賑わうことを予想していた。さらに、ハピテラスは毎週のようにイベントを開催しており、会場自体の認知度は高い。結果として、SNS等でイベントのチラシを見た来場者も多かったが、通りがかりで立ち寄った親子等も多くいたと感じた(後述「来場者アンケート」参照)。

◆ 各活動(全体、ブース)の様子

全体の様子



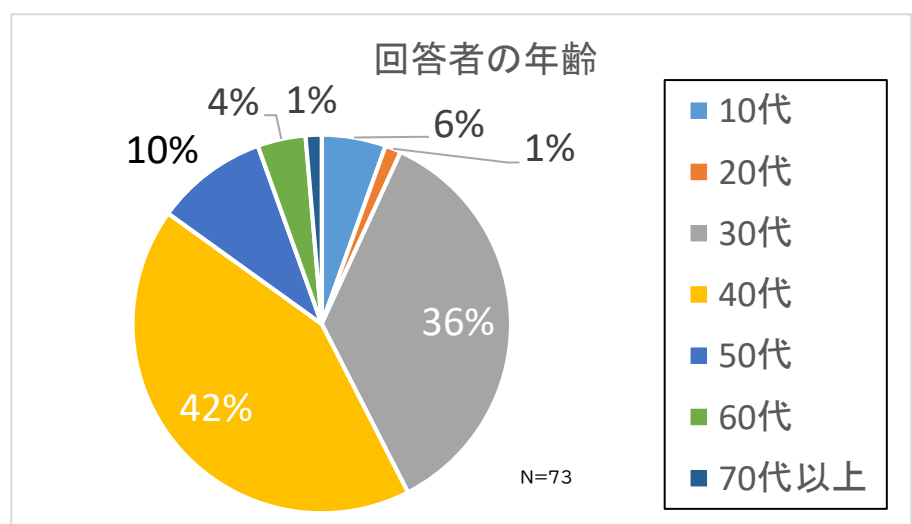
各ブースの様子





◆ 参加者の声 (来場者アンケート73組の回答より抜粋)
回答者の年齢層

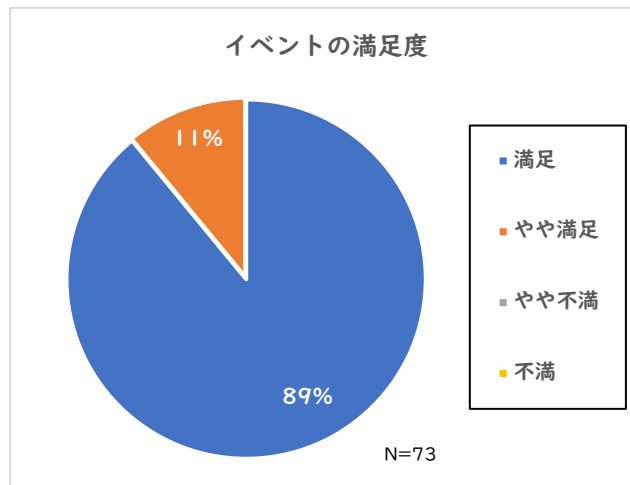
年齢	回答数
10代	4
20代	1
30代	26
40代	31
50代	7
60代	3
70代以上	1
合計	73



- ・ 子どもが楽しんでいたのも、また実施してほしいです。
- ・ いろんな体験ができるので、すごく楽しいです!
- ・ 青年の家に以前何度か伺いましたが、とても楽しく充実でした!またぜひ伺いたいです。
- ・ たくさん、色んな体験ができて子どもが大喜びでした!また参加したいです!
- ・ 雨降りでも楽しく遊べました。
- ・ (ブースを)いくつか回りやすい構成(構造)でした。

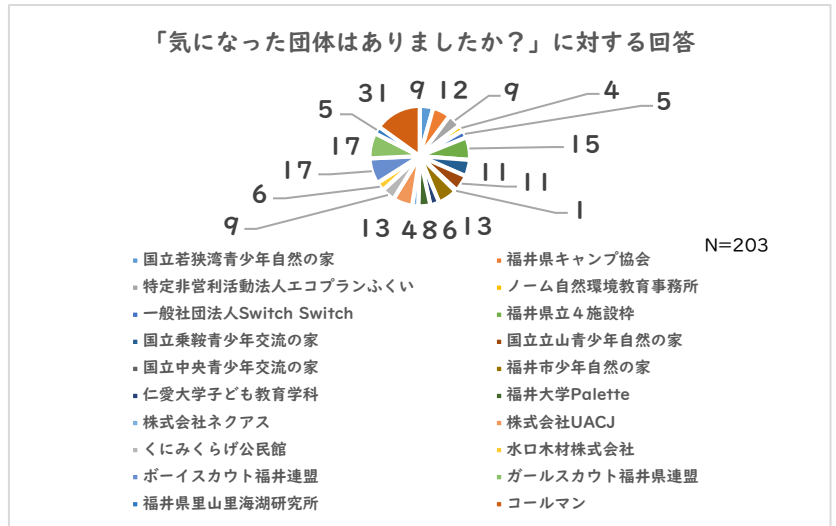
イベントの満足度

「満足」・・・65件(89%)
 「やや満足」・・・8件(11%)
 「やや不満」・・・0件
 「不満」・・・0件
 (合計 73件)



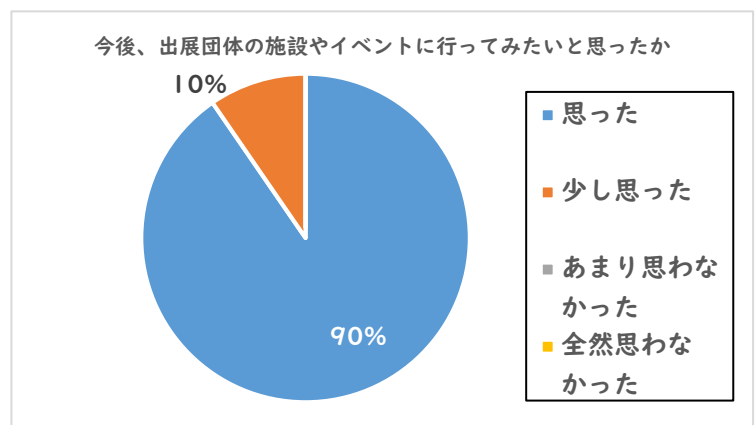
「気になった団体はあったか?」に対する回答 ⇒ 各団体の認知度向上

73件の回答には、すべての団体が選ばれた。



「今後、出展団体の施設やイベントに行ってみたいと思ったか?」に対する回答 ⇒ 各団体の認知度向上

項目	回答数
思った	66
少し思った	7
あまり思わなかった	0
全然思わなかった	0
合計	73



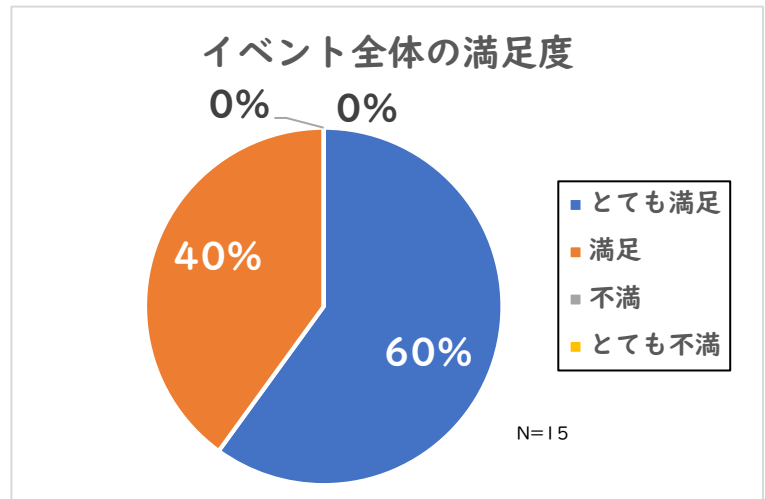
来場者アンケートに回答があった 73 件のうち、89% (65 件) が「満足」、「やや満足」と回答した。総じて、子どもも大人も楽しめたような感想が多くみられた。特に、様々な体験ブースがあり、色々なジャンルの体験できたことが良かったようである。また、15時で体験時間を終了したが、「16時までやってほしい」という声もあった。一方で、「会場がせまかった」や「もう少しゆったりできると良い」という声も寄せられ、会場の配置や出展数を検討してもよいかと感じる。

また、「気になった団体はあったか」や「今後、出展団体の施設やイベントに行ってみようと思ったか」の質問に対して、すべての出展団体が参加者から「気になった」と選ばれており、参加者にとって各施設やイベントに対しても興味を持つきっかけとなっていた。

◆ 出展団体の声 (出展団体のアンケート結果より抜粋)

回答があった 13 団体 (15 人の回答) から「イベント全体の満足度」に対して「とても満足」、「満足」の回答が得られた。

- ・ 「開催場所」については、概ね「良かった」という回答が得られた。今回は、実施中に大雨に見舞われたが、屋根がある当会場だったため、大きな被害はなかった。また、人通りがよく、雨天のわりに多くの来場者があった。
- ・ 「開催時期」については、暑さによる熱中症や1日中荒天時となる可能性があることを心配する声が一定数あった。
- ・ そのほか、「隣接する団体同士のコミュニケーションをとりながら出展できた」や「ブースを出している団体同士でのつながりもできた」という声もあり、本事業が団体間の連携を強化する一助となったことが伺える。また、会場の大型スクリーンを使った各団体の動画による広報や SNS で当日の様子を公開するなど、「本事業の PR 方法について工夫する必要がある」といった声も寄せられた。さらに、本事業の特別協賛であるコールマン提供の会場備品に関しても、多くの出展団体から「事業の一体感があった」や「タープテントが使いやすかった」といった声があり大変好評であった。
- ・ 「今後も出展にご協力いただけるか」の質問に対して、ほとんどの出展団体から「積極的に協力したい」との回答があった。



◆ 成果と課題

- ・ 昨年度の同様の事業では、来場者アンケートの回収率がとても低かったため、今回は受付や案内所を設置し、当施設職員が来場者に積極的に声かけをした。また、アンケートに回答すると若狭湾のノベルティを贈呈することでより多くの回答を取得できた。
- ・ 上記アンケート結果や当日の来場者の様子を見て、未就学児からご高齢の方まで、幅広く満足度の高い事業となったと考える。
- ・ 上記来場者および出展団体からのアンケート結果より、本事業が、出展した団体の認知度を上げるための一助となったことが伺える。
- ・ 本事業では、主に4つの方法<①開催地域の小学校・中学校等へ学校情報掲示板に掲載 ②出展団体の HP・SNS での広報 ③メディアを使用した広報 ④SNS 等での掲載>にて広報を行った。

特に、地方放送局の夕方の情報番組内のイベントコーナーに生出演し、本事業を PR した。その他、NHK 福井や民放テレビ局のイベント情報やラジオ放送でも宣伝していただいた。次頁の表のとおり、メディアへの露出は、無料で広報できるうえ、反響も少しはあったと実感している。

- ・ 「このイベントをどのように知ったか」の質問に対して、回答項目の「その他」が一番多い結果となった。現場の状況等を鑑みながら、「その他」の項目がわかるような設問を検討する必要がある（「通りすがり」の来場者も多かったように感じた）。
- ・ 昨年度も来場していただいた家族もいて、事業の認知度も少しずつ上がっていることが伺える。

「このイベントをどのように知ったか」に対する
来場者 73 件の回答

項目	回答数
その他	27
インターネットイベント情報サイト	15
友人・知人に誘われて	14
施設や街頭のチラシやポスターを見て	10
テレビやラジオのメディア	7
当施設の HP、SNS	7
学校のイベント掲示版	2
合計	82

◆ 事業運営のツボ・工夫

- ・ これまで令和3年度より当事業を実施しているが、今回は東京都「体験の風をおこそう」実行委員会と連動させて、事業名を「TAIKEN MARCHE」に合わせて開催したことで、企画段階からチラシの作成、ロゴのデザイン、運営方法、出展団体等、様々な点を情報共有しながら行うことができた。東京を皮切りに、各地で開催することで、当「TAIKEN MARCHE」というネームバリューが高まる可能性を実感できた。
- ・ 今回は、企画段階から行政や企業等に広報を行い、企業が2団体、さらに大学も2校新規で出展していただいた。今後さらに、行政、民間団体・企業等、大学などより多くの団体と連携し、体験活動を普及するコミュニティを構築することを考えたい。
- ・ 実行委員と連携して企画・運営を行うため、事業前後に数回オンラインミーティングを行い、協議および情報共有を行うことで、多方面からの視点を得られ、よりよい企画・運営が行うことができた。
- ・ 出展団体への事業説明に、合計2～3回ほどオンラインでのミーティングを開催した。その際に、平日と土日祝で2回同じ内容のミーティングを開催するようにし、全員との情報共有を確実に行った。

謝辞

この度は、「体験の風をおこそう」運動および当事業趣旨にご賛同いただいた出展団体の皆様に、出展等において多大なるご支援をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

ありがとうございました。

(自然の家一同)

<p>【事業担当】 国立若狭湾青少年自然の家 小林、齋藤、島田、井石 住所：〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜 TEL:0770-54-3100 FAX:0770-54-3023 Mail:wakasawan@niye.go.jp</p>
--